訓幼字義

四

四端之心　良知良能　才
志　意　氣
聖賢　君子小人　學　鬼神

書仁13
987
4 上

帝國圖書館藏

刪補字義卷之七

四端之心　凡十則

四端とは心なり。孟子にあらはる。人々に具りて善ん。惻隱羞惡辭讓是非の四のことなり。即仁義礼智の根本なり。

惻隱とは物を不便とおもふこころ。羞惡とは物を惡むこと。辭讓とは物を取まじ紅るとこと。人のあ〜れるとゆくむん。辭讓とは物を取まじ紅物に辭退しゆづるん。是非とは物事のよし〜あしとをさまふ弘ん。此四のこころは凡人にもそなはりたるこころなり。故に孟子曰人皆有斯四端也。我固有四体也。又曰惻隱之心仁之端也。羞惡之心義之端也。辭讓之心禮之端也。是非之心智之端也。こゝを端とは根本とはこゝろなり。此四のこころ

とゝひろむるこれ。仁義礼智の端と為して言ふ。これを四端といふ。後世端を訓して緒とするは非なり

宋朝の儒。仁義礼智を人の性とし其の発して外に見るを四端と為す。四端の端を端緒と訓ずるは。孟子の言葉あり。次端緒

といふは。物のたゝにのるなり。仁の理あるはあつまるなり。側隱のこゝろは。義の理あるはあつまるなり。羞悪のこゝろは。礼の理あるはあつまるなり。辞讓のこゝろは。智の理あるはあつまるなり。

たとへば物の中ふかくそのふくろのごとし。集註に。於有物在中而緒見於外也とあり。物の上に多くは端の字の義をもちふ

註に朱子言ふ。仁義礼智の根なるこゝろなり。たとへば木ふ

根なるがごとし。その源は涓滴なるのみ。それ沙を孟子に若火之始然　泉之始達とあり。仁義礼智の端は。物のふかくこもれるものゆゑ。次第ふかくなるべし

端の字と緒の字と訓ずるは。端字は訓をもちひず。緒字は訓をもちひる。端字義のたちはじめてあるは。次古人の字同じ

後世の字同じくして義異なるは。仁義礼智の義も同じ

と。端の字の訓をこゝにふるくは相違なるべし。つぎに古人の訓詁をもつてこれを。人の行ふべき上にあるものにて。天下の人貴賤上下の同じく行ふべきとなす故にこゝにて下の字

をもつて。仁義礼智をもつて。先王の一定不易なるものゝ

の人なり。或は一人なり。或は一家なり。或は一国天下なり。
たゞ近のたゞしあらんことを。人の利益を得恩澤を蒙らん
と仁ならんことを欲するは何ぞ。惻隱の心なれば。象惻隱
の心なり。ゆえに惻隱の心は仁の根本なり。孟子曰。先王
有不忍人之心。斯有不忍人之政。不忍人の心は即惻隱の
心なり。不忍人の政は即仁政なり。極至は天下を治むるとの
仁を。ひろめ充るの惻隱の心なり。惻隱の心は即
仁の根本源頭なり。羞惡辭讓是非の心を四端とす。四端
の端と端緒の義なり。この心なり
後世の人これを端緒と訓ずるは。後世人の作用の說なり。蓋
然不動の字を仁の本体とし。未發の性なり。思慮運用なり。

なり。惻隱羞惡辭讓是非の心。已發の情
なり。性は是なり。仁の理なり。情は
四端の端を訓して端緒とす。仁義未發の理なり。
のごとく端緒と訓ずるは四端の情なり。
義別あり。希ぜんは人の学ぶ進及生死の
接完なり。孟子の不謂接完なり。宋朱子の説
不可。先孟子の不謂接完なり。或は及ぶなり。或は達
なり。或は推なり。孟子の彼うつ。ぶるものと大なるものと
なり。たゞ人は小児の書を学ぶ。ひらがなは
清息声なり。ひらがなは真字の端緒なり。後世人の

て〻。四端のんと物て〻ふ推及し。次第くふ若よとくむ。そこと擴充しつゝ後世の擴充ふつゝ人ゝ物欲と排ひさう亦の日くふ場の廣くなるものなり。たゝ人ゝの情境のくさうとさうふ。分さう一すゆし。一すうう一天ふ〻て。一面の境とくくみくさう〻。そこハ仁義礼智と性の程とゐん。人欲と境のくさうのてくにおとさうゆ。くさうと排ハ分ふこの次第くふ廣くなると擴充しつゝ。孟子集註よ云。即此推廣。而充滿其量則事日新又新將有不能自已者矣。くそなり。物ふの人系註の擴充とを。たゝ古ふ義ふ義よ論とふ亦ふ。若んとひろしくおとゝ系ふの意よあゝ次の意ふ刻。集註よ充ハ滿やゝあり。古註よハ充大の意ふ註

でふ。そこ又義別あり。集註の意ハ仁義礼智の程を茶一定とふ亦ふ。物欲と排ふ亦ふ程の意ふと充滿〻。一天四方の境ふ亦ふ。くさうとさうくふの一天四方ふうとふ。充大〻刻とふしハ亦ふ本の成長〻流ふの色ふ物とふふつゝ。次第くにまハ〻ハのつく。分ふ意ハふとふ。物ふ不孟子と若ふ。尚傳ふ養ふ物。不長〻ふつゝ。ふ〻人ハ若よとふしふく。次第ふ培長とふふ。ふふくなハ人ふの境ふ〻。充の字ふ孟子書中ハ多くあふ。物とふつゝふ。ハのつく。ふ物ふふ。謂物を有而取ふ者盜也。充類ふ義ふ盡やし。あふ。此言ハ礼ふ〻ふ物とふふ盜賊〻ふ。大ふのふけふ。ふ〻ふ〻ふ。ふの有よあふふ類とふ〻ハのくいひふふのふ

て。真よこなと盗しいとなもとしるす。又云。元仲子ゑく採粥
而後可者々。此義は於陵の陳仲子。潔白なるものとこのゝく。
兄の室家の祿とうけうつくれとも。此こころと一つ一つと
しれるくれ〳〵さへ人間のもまひいなるとたゝ中の既
粥の求めなるさへくなるとしるるもとしのるなる。元の
字の義をなるくもるくし。四端のんと元るゝいをなるの色ふ
しくに仁とくしくふちるくれるくるふ。物欲と拂へ乃謂
ふあゝと
四端の事。宋傷の說なへ。善端萌見のもゝに拡くゝ廣む
しるくゝなる。集註なる。四端在家隨処萌見知皆即此推廣
而充滿之事拡くるもゝ。先

傷の意は。仁義の性は中ふ具るゝ程なるくなるあるゝもさ
もはへもとなくゝさゆうなる。四端は萌るゝところとなるけゝて。こもろう
もゝひるむゝくゝなるなる。要なる意は拡次。人く自性の善ともるゝふ
るゝくゝ善なるむゝなる。ゝる性の善ともるゝんるる。性善知良
能の說なるもゝ孟子八章を。人はんのたゝるふ具るゝる不忍
能接はあるくゝ示〳〵なるゝ。そもゆゝは所以謂人皆有不忍人
るくん者は上はあるくゝ。次は孺子のもとるゝ。此ゝゝとたる
ゝなるくゝもゝひるめるゝいるふあゝと
殺見ふ敬くゝ擴充とゝるゝ。人者もるゝくゝ多〳〵。何も
なるもは。昧惕惻隱のんは。孺子の井はるゝんゝもるゝと見るくれと
ゝ。次牛易牛のんは牛の觳觫るゝと見るくれるゝ。もゝこのゝ

ふるまひ。此人殺見とたとふ。たとへ物のうびんなる
るへ偶あるとふるく。日々にあるとふ。たとへふ必
殺見と結ぶくと。廣んしかたくとこ。撲充の実間斷の
日多く。諸孟字義云。和此則不有當惻隱羞惡辭讓之報
者。是則惻隱羞惡辭讓之那ちくん不由而發也明矣。然而
當惻隱之事。日間無幾。動經十數日。或無有之於羞惡
辭讓之那ちくん亦然。夫若此。則用功之日常少而曠處之日
常多。雖欲用擴充之功。何由而得乎。且又欲擴充惻隱
之一端。於將有力不及之患。況欲於四端上逐一擴充之則將
有尤顧右躬應接無暇不堪之患。孟子之言固不若
此之近也。且又孟子。若以遠庖厨とあり。是ハ仁人
と殺人の法なり。殺見とたとふ結ぶくとあるハ庖厨の側
に住居して日々小屠門の殺生をとくとくさすあり。たとへ
ハ庖厨を遠さくとあるハ何ぞや。殺見と結ぶくとひろむる
ふあるくとあるくと。又云。充無欲害人之心仁不可勝用
やくと。人と害をとるもと欲せさるのん。於ハ日々ふ殺生をと
ふあるくと。然ハ四端ハ殺見と害をとたとへ人と具り
ふる者ん多ハ。是ハ生をふとくとくと。諸事とその色ちよと
及せとくとあり

学問の主意ハ。ひたすら撲充の一事ふこと也。孟子ハ日ハ孟子
ふたすら充と。孟子の学問ハ賢のとくと。皆此ふ外ふあらすとて
とあり。その外と別ひたくとこと。後とふとうあるの

あるもの。ものこそ。ものこそ。ものこそ。ものこそ。何ぞ。なぜ。
性は善なるものなり。人のなすべきこと。善人あり。次いでなり。
然れども。ものこそ。一つのものなり。ものこそ。他のものとしてなれ。
ものこそ。ものこそ。ものこそ。ものこそ。ものこそ。ものこそ。
然れども。賢者のみの域なるものなり。撰充とは。その
一つのものなり。行なうこと。他のものなり。次第不善なるもの
しくなるものなり。たとえば。たとえば。人の命の一生なるものなり。
ものこそ。仁のみなり。所謂不忍人なり。然れども。撰充
せざるものなり。甲斐なし。士君子。教育人の性命を
害し。隣国の士地を奪うこと。何ぞ。なぜ。此所謂不忍人。
撰充せざるものなり。牛なるものを推して。人の

の上なる。不義の合戦なり。人民の性命を救うこと。
なり。故に。人皆有所不忍。達之於所忍。仁也。又云。仁者以己及人。
所以不忍之政。古之人所以大過人者無他焉。善推其所為而
已矣。何を此なるか。ものこそ義理なり。
なり。何なるものこそ。人の行なるべき此色なり。ぜひ放ち人を探し
ものこそ。なるものなり。然れども人をたすけて
法を得。人をたすけ。善政を揚げ。日々ふるさとなり。
人をたすけ。ものこそ。推して。人をたすけるものなり。
也。自ら行なう。又百工技藝のものなり。
なり。法を得る絶藝。後世の妙なる良工なり。何を撰充
申して。人なるべし。

良知　良能　凡四則

良知良能とは、孟子ふかくこゝろ。良は易直
とゝ註す。物ごとをあるのなり。何のゆゑを生付のまゝ
なるこゝろの善と良とは、孟子より又良貴と云、論語
小温良恭倹譲と云。何を温良とは云ふ
良知とは、生まれつきたる。良能とは生まれつき能
きこと。何を学問修行をまちまちして得ること。孟子
は此説を教へ、いまを性善と説四端と説けり。さて
はこゝろだけを論ずるふあり。人のうまれしのゝ家
ゝは異なることなし。たゞ人ばかり良知良能と
直小仁義礼智とは、親は親、君は君、父は父、子は子

とて、天下ふかきこゝろふあり。父子兄弟ふかく
凡人生のこゝろは、皆古今ふかくこゝろ。
何のゆゑとは、良知良能とは、故孟子曰、人之所不学而
能者其良能也所不慮而知者其良知也。此説は、
しかるに、小児の三歳の時、乳房ふ
乳とのみ、ふ乳をいかさるこゝろ。
能やだきをしらざるこゝろ。孟子は良知良能
つまり、仁義礼智をふかくこゝろ。孟子は
人こゝろの自ら生付たるものあるこゝろ。根ざしは
と行ふこゝろ。ふかくこゝろ。人は仁義
親及ばざる長ずる。不知敬ずる。孟子曰、孩提之童、無不知愛其親也、
孩提は笑やすし。註して第一

てゝ子の小児の時物をもたせいたゞきて人を抱せるにたゞ
ちに孩提の童ゝ孟子曰の子のこゝろをけいかもの人は世間を見
ひしゝのことをさとりこゝろの通ずるところの
善をあらはす徒抱とも孩提とも小児の善あるこゝろ
はけ焼及おこゝ人の本性なるあることゝ
この孩抱の童はいまゝ世間のこゝろを学問のこゝろをあさけ
ふこゝろや親をあしゝおしゝ人ゝ人の性をそなへ
ふこゝ人の性の善あることゝ
あることゝ此良知良能と推しひろめこゝろ和のこゝ
人のこゝ遠ざかれる拒を思ふこゝ引せこゝ示こゝ
ゝ故此言の給ふ親親仁也敬長義也無他達之天下也

しゝ我を助ゝ給ふ後世ゝ良知ゝ
ゝ拒ゝ孩ゝ議論ゝ孟子の
陽明ゝ致良知の說と傷ひ
ゝ又ゝ
意明人見性の說ゝ孟子の
ゝ孟子曰ゝ致知ゝ
致ゝ致良知ゝ說拒ゝ此ゝ孟子の學問ゝ致知格
物と先哲ゝ天下の物ゝ
下の書ゝ天下の
拒ゝ物ゝ
繁多ゝ受用ゝ切ゝ氏此說ゝ致知ゝ

[illegible]ふあらんと。自己の一人をいふ。[illegible]ふ。[illegible]物の上を我[illegible]を程を物ふあるを。人の[illegible]良知のなんぢ[illegible]ふあり。[illegible]と[illegible]致良知[illegible]。王氏の[illegible]繁文の弊をたゝく。簡約をてらす。[illegible]ふ親切なり。孟子[illegible]聖賢の事[illegible]と考ふ。大学は致知[illegible]。[illegible]物の先後本末をはさ後[illegible]家国天下[illegible]。物の先後本末をはさ後[illegible]。[illegible]ふ。朱子の說なり。本末[illegible]。又良知の[illegible]に論じ[illegible]致良知[illegible]。[illegible]。孟子[illegible]良知良能[illegible]。[illegible]。王氏良能を指す。[illegible]良知を[illegible]。

[illegible]

才　九　三則

才とは性の能なり。孟子集註。才猶材質。人の能なり。此註を[illegible]。[illegible]梁の用ふ[illegible]。人の[illegible]。[illegible]。故に才質才幹[illegible]熟用[illegible]。又世の智ある人を才[illegible]。才雖[illegible]。才[illegible]。[illegible]用[illegible]。

孟子云。若夫為不善。非才之罪也。程子云。才稟於氣。氣有清濁。稟清者為賢。稟濁者為愚。此二說[illegible]。[illegible]。[illegible]。程子為密。此云。孟子[illegible]。[illegible]。[illegible]。故に才に不善[illegible]。程子

人氣質のうるるものと成るくらいて故に才ふ善悪あるとしるべし。
ちなみに宋朝の学者程子氣質の性をたづね。孟子の所謂才
しるべきものと有て氣質にまとうるゆえに程子の說と
孟子と齟齬あるごとくいへり。然れども性といふべき性は実理の在る
ところ。才とは氣質にまとうるゆえ。又才とは氣にしたがひて
しるべし。そもそも程子と齟齬あるといへども。惣別
氣質の性とは模糊たるものへ模糊たる氣質の性とは
いふべし。程子の所謂才とは人間の氣質なり。そもそも
才は善不善あるべきものなり。
才とは人のもちまえを名づけ。然れども人のもちまえを才とは
いふべきなり。而して又人の行をもとるべしあり。孟子は

未嘗有才之云。不能盡其才者やうの人の行を才とうるさまの
ありしなり。又家貧多類凶年多暴。那天之
降才爾殊也。所以陷溺其心者然やうの人。此所の才とは
ものと善悪ともに通じていへり。
ことを才なり。もとより才とは多くの人。暴多
いふべきなり。然れども天のあたへしところ善別
善あるもとをあらためざるとあり。だんだんの才とはものの。
人のよあるべきなり。盜賊の及ぶ人とところをとびなる
あり。又善とはよくものと書。書とは拙くらしをびるあり。然れ
いふべきなり。又あるべきなりなり。然れども
そのりくを推してしべん正しくさとれい善とあるべんあるさ

こゝさへ惡とおもふこゝろ。善惡いんのこゝろあり。大いこゝろ小こゝろ。
こゝろ。才のあ〳〵こゝろ。故に又云若受爲不善邪
大こゝ罪やしなへ

志　九　三則

志こゝろ。こゝろの存主ところ和みこゝ。氣とひこゝろのあり。
孟子曰志氣帥也。帥こゝろ。帥の義おこゝ。大將の
ゐあり。志い氣とこゝろとのあるべ。大將の士卒とこゝろ
こゝ。ゆゑに氣の帥あり。こゝろのあ〳〵こゝ。氣
とこゝろとのあり
いこゝ存こゝ謂こゝ志こゝ。說文の註あり。又詩經の大序をあ
こゝろ。先傷こゝこゝろこゝ。故こゝ大略の

註あり。此分みこゝ意明こゝ。そこ沙。諸孟字義小此
註をあ〳〵たこゝ。いこゝ存こゝ存こゝ。こゝ志こゝ。何
みこゝ。こゝこゝ。小志こゝ。存こゝ。こゝ。若こゝ
てこゝ。こゝ。賢のこゝ。志こゝ。こゝ。こゝ
こゝ志こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
あり

小溪字義云。才志於利。使人諂。諸孟字義こゝ。非
こゝて。こゝ。不善よい志こゝ。讀者多く說
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
小。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。

そもそもうるく志い善悪ニ為くいて出ることあり。物引
字の正用あり。假用あり。乃ち法ニ云字ハ乃ち字の
ごとき正用なり。不ようの用なり。さハ邪乃小乃ニ云字
法悪法ニ云ハ類なり。孔子曰乃二仁与不仁而已矣ニ不仁ニ
又乃ニ云ハ皆ハ假用なり。こゝ乃ち乃法ニ云字
ハ善悪ニ為て云ハ云ハ乃ち乃ち云ハ必定ニ
さるとき乃ち乃ち乃ち云ハ乃ち乃ち乃ち乃ち
と乃ち云ハ必ずさるとき乃ち乃ち乃ち乃ち
あり人と云ハ皆ハ乃ち志あり人と云。論語ニ匹夫不可奪志や
ニ云。志士仁人と云。又志氣志操ニ云。何ぞ乃ち志あり。これ
てもなり人ハ

意　九十則

意ハ意ハ意志ハ意ハ意ハ意

家の如と成るとも。身の如とんのあとを言よとも。て。
誅言と用切のてめしと。そ。先傷の說のてく。言とんの
爰とつくさいん。神ちくなり。意に用ちくあり。上
の條目の例ちくに。用の誅言とされちく。おふ体のんと正
もくと。法もに欲誅言者先正言くして。欲正言ん者
先誅言と言とあるまてとあり。平天下の俗用ちくい。
法く事ちかよくつく。正ん誅意の條ちくに。此條ちう
事と先ちくかと法ちと。そ言有ちう言一ちり。朱子の門人
ちと沉個李閎祖の学此類ひあり。朱子の左右よりの濁り
とと多ちよりの彼風と辨むとと先しひとあり。ちもとんと神
くて意と用ちとのたくあり。法もくちと女の言と先く

ろふ。怠懼恐懼好樂憂患なるのてくに。皆んの用ちり。用と先ちく
てあくふ神と言とくとと言ちう言。法もに意とんの後くそのにちか
くちうとくしちうくく。
神ちに大事ちる。誅言と言んのあくふ法言とくくいく。曰。ん
とに思ん運用ちう正とつく。怠懼恐懼好樂憂患のたくひ。皆ん
のくくくちり。大事ちあくく。怠懼恐懼好樂憂患ちう
下ふくもに先ん和に言ちり。法もくくん言ちくい。玉拙
のちふあくと。和拙ちあくくと言ちくくく。ちうの肉かく
ちくくと言ちよりくもに言ちくくと言ちくく。ちうの肉かく
肉和一致ちくく。言とぬてに好色とこのむくく。悪とみく
むてくに悪臭とちくむくくんのそふ地とくくかくたりうる

とつ。故に正しくとゝのへ。謙とは物をあとゝのへ。故に謙
とつ。喜とは人の肉をたくさんにひろげたる故とて
らとゝ

論語孟子をよくしてゐたり。論語は母意とあり。先を上に論と
ろ多くの意しるす。集註は無私意しるす。解あり。総をこゝ
意いかりしるす。人は此四つのくせあるさまとゝ。故に絶四とゝ。
学ぶ底の人たち賢人者をみをびやまひあをこゝ。聖人はかろ
てあをゝとつ。私意をのいらずしてあをゝ。聖人
分上はあるあるさの沙汰はよい及さるてあり。意必固我とゝ
聖人のみあるをいかりとうの悪さるのふあをこゝ。常ふあるこゝ
ものの上に沙汰をたくさんあるさとゝ。人は私の字

と加くれ意といひてゝ。総は論語は母意とゝ。意
とのいあるの底をたくさんひろげ。表むきふんを
して内をたくさんつむてゝあをこゝ。
てあをこゝ。ぜんのあるをこゝ。
さうをとゝろとゝてあり。聖人のこゝろは白正大あり。
内外ひろあり。表はてゝ多くの内は作ゝ
あさてゝと母意とあり。人は白底の人を人のゝ物とあり。
猫は猫ゝてだまるあ。或は猫人虎皮の中みく。次第とあくゝ
立ゆるあくの類。おゝ学問をあをいあるくやゝ。
ひたくひあくゝ。又孟は詩と績ゝと仁意道志心ゝ
人とを。をゝ多くあり。詩人の志のあるところとゝ方はゝ

意ゆくをいふ。ゆくをいふ。易ゆくを又云。言不盡意。何
をかいはんとなり
春秋と云ふの。殊意の說あり。そは当時の私臣職子の所為よ表
はれたゆうゆくん狼のあることなり。こゝを賊殺もうと謀ること
いふ。又詩人のこゝろふ。及者のうさうにあるくいまゝこゝろ推
拓と。及意雪意とつ。又ゆかれ今文章の内。系註大全を
天地の意を人のこと古人の意ゆくいふの類。何と此方ゆくく
意をたゝ孫求ることあり。そを四人字義色用〳〵推量況
ろんあり。想像もうことあり。往来討授もうことあり。これらう
結ふとゆくゝ地をふとゆむ。何を此けあり。又人色をもうこと
へ。信度の信ゆくあり。古人色をもうこと。就懷の懷ゆくあり。内

用ゆもうこと。胸臆の臆ゆくあり。文字ゆもうこと。何を胸中ふ
たくゆくゝ地をひやりそくゝとゆくあり。そをいひふたくゆうの
ゆもうゆ色用と。彼元合を考ゆふ。庶人下人の義ゆくゝ
或云。章句ゆくゝ所数やゆくゝ註と更ひゝもうゆ人。系註大全
ゆふ。ゆふの意の字。就授ゆくゝ。ゆうゆくゝ。日徳ゆくゝ。文字の
正義ゆ古ゆうゆ世間ゆ熟ゆくゝ更ひゝ。ひゆうゆくゝ。何の
せんさをゆくゝ。月ゆ符合ゆくゝ。そを義ゆうゆくゝ。有学無学
のゆくゝ。ゆくゝ。卒生のゆくゝ。ぶをのゆくゝ。経書の訓義ゆをゆふ。
日本ゆくゝを学問ひゆくゝ。漢土の文字世ゆ廣ゆくゝ。
ゆくゝ千有餘年ゆ及ゆくゝ。そを西人世間の学問せゆう人のゆくゝ
をふをそのゆくゝ古義ゆうゆくゝ。今の人のそこ表ゆく表

乃内意ゐとつくしは中國の人のこゝろを人のこゝろ
こゝろのまゝ人のこゝろ移とつくしは龍とつくしいんや中國の文字
の内よりは龍擒とつくこゝろ多し。猶ゐ先傷ふあやまり刎
せるくるのあるは字義ふくこゝろふあゝと。宋学の地をしこゝろ
とたゝくこゝろ。こゝろ上る体用の說とこゝろふこゝろくんとこゝ
て体用を惡いひく此ゐ意の字情の字ゐくと皆人の用こゝ
こゝろ人。經と註とこゝろ人の殺こゝ註ゐ本こゝろ猶こゝを
古來こゝの字こゝいひゐこゝろけたくこゝ人集註ゐこ
こゝくふくこゝ意こゝ字は皆こゝ膳見のこゝ。情の字のこゝけも
又こゝ意こゝ。後世性情体用の說あこゝを經史の中はこゝ情
こゝ字は何を情の條下は端こゝ意こゝ人のこゝを付のこゝ

あるこゝこゝ惣別人情意は皆已發の人の上ゐくこゝこゝのこゝ
ゐくゐこゝこゝのこゝ体用のこゝ別ゐあゝこ
或云意の字人根こゝ付はこゝ人ゐこゝこゝ猶ゐ母意こ
いこゝは人ゐくこゝ一偏ゐこゝ此こゝ付ゐこゝ一のゐの字とい
こゝこゝ私意こゝ註せこゝ人ゐ付こゝ。こゝ猶こゝ人ゐこゝ
く雜こゝこゝ意こゝ惣別文字は人ゐ字を加こゝ猶字ゐこゝ人。
又基經字ゐ人こゝこゝ人ゐ德要こゝ人ゐ類
人こゝ法こゝ人こゝ人こゝ人ゐ稱こゝ人ゐ加こゝ人
人こゝの字のこゝは若こゝ人こゝ私の字基字。猶
字は私の字と異こゝ人こゝ私意こゝ人ゐ
字文字を母私こゝ人ゐ意こゝ人。

さられる論とうるおうふるく。一の私の字といふもとをしらく安撫針灸の
ひさうたるこしたるこしたるく。又問意いてしく全くあれてあるハ。
聖人のこと天地の意といふもとをしる。文字中意いてしてあ
てしくしくあれてこしたいひかく。四まてしふ独りこ意いてしてし
全くあれてしふあること。必問我もこをうるこ。ふるてい物
とうるこしとこ地をひ。思ひ入をこくうつこるこ。ひつの外ちあるく
言ものたるもとこ。非よしをうるこ。孔子のたくひ賢人者の上よ
をあるこあるう。独をこをるの疏をのふあるこ。文ふよいこの四ち
のこをあるさふるくかくいつ。高をこをるこ言をひつさまてくんべん
もとべし。意をこをうるあるう
或人云。大学非孔氏之遺書雜の中に。誅をこのふと雜して論語

の毋意くしこ一以貫之をこうひるこをこう論あるう。大学完ならいさ
のくこをうけをうんこと。夫孔の美はてくあるうけをあるこあるや。曰。
そハ早年晩年の美はあるう。ちくめよハ誅言くいてくこと。一向よ
くくをこをうるくこ地をこるこをうるく雑のをうふあるこをう晩年の
見んよハ孟子の思誅をいふをうるこ。曰。さるこ地をこう。少よ定
年よいさのくを極をうるくあるく。だくこ定よるうるくこを義と識ひを
為くし
或云。独くハ誅言のくし。畢竟をこ人の名ふたるくあるくや。曰。誅
意くいふるハをくしつめくしくハ。毋自欺やくいてくこあるう好善如好
文。悪悪如悪臭。善をこ善くこ悪をこ悪くこをうるこをこ。人の庵
ちう誅よをこをうるこあるう。論孟よ誅をこをいてくこ言ふハんくこをしこ。

未見好德如好色者也くしのごとく人は好色を好ものなれども
ごとくなり見不善如探湯しのごとく人は悪を悪むこと臭きを
しごとくなり。聖人の名ふたつあるは独れをまことのものは何を学問習熟の上にて好悪の誠あるものとのこと。
卒生のごとく人は礼義をなすこと生のごとくにして学問習熟の後は礼義をなすこと生のごとくなるなり
ふのごとくふを純熟の後は礼義をなすこと生のごとくなるを聖人とは。聖人は礼勿視勿聞勿言勿動の上は自然と工夫と有て意上に於て力と付るなり。視聴言動は和ふとく来なり。意は外なるとく内なり。外の意と誠なるとなるとなるとなるとして。後は視聴言動の上の程は自然と工夫と用ひ。後世なるひとは有るものなり。未だ不ふるてんを。

誠意は意を主とし。意は物なるを主とし。心は物なるを主とし。身は心なるを主とし。修は身なるを主とし。
治は大学條目の次なるを主とし。自修のなるを主とし。惣別聖人のなるを主とし。
推しては或は所と云或は己と云てんとのごとくにして基本なり。
所己正己反所誠所の類あるは孟子なるは人性の善とするを
とくとくあるは。なんの良とく説けるを意とするとして見るなり。大学
ふは治国平天下なるは限るなるとして使とく所と説くなるを
と意とするとしてこなり。物なるは誠意と條目のなるをもとして
なるものなり。須なるを主とと考へし。
或云。諸孟字義は。意者人之往来計度者とするなり。物なる
は今人のなるのなるとなるは。先見とするなり。曰物なるとなる

徒(ハ)孫計(ハ)彼(ハ)ことなること。人の中(ニ)あるこ
とを。人の中(ニ)あること。物(ニ)あること。物(ニ)あるこ
とを。人と物と推(シ)て人(ニ)ものを。人と物と
てんよあやふむこと。何を言(ハ)ずとあることを。
人の内(ニ)ものを。地(ニ)ものを。人皆意(ハ)あり。それ思(ハ)ず意(ハ)ありて字(ハ)
こと。又こと。刻(ハ)ものを。而(ハ)あり。拙(ハ)徒(ハ)孫計(ハ)後(ハ)を。内の
こと。ものを。美(ハ)ものを。ものを。十(ハ)六(ハ)年(ハ)和(ハ)よりをひろく。先人(ハ)存(ハ)
の日(ハ)貨(ハ)正(ハ)ものを。拙(ハ)を。印(ハ)可(ハ)ものを。ものを。拙(ハ)索して。
然(ハ)ものを。人(ハ)。又(ハ)裏(ハ)あること。ものを。ものを。拙(ハ)
本(ハ)ものを。本(ハ)人(ハ)のこと。大学(ハ)字(ハ)を。意(ハ)思(ハ)やし。註(ハ)せり。拙(ハ)き
まこと裏(ハ)たること。

氣　九十三則

氣の字(ハ)右(ハ)ものを。註(ハ)。拙(ハ)を。義(ハ)分(ハ)ものを。
ものを。諸(ハ)孟(ハ)字(ハ)義(ハ)を。ものを。ものを。
人(ハ)陰陽(ハ)を。暑(ハ)の氣(ハ)ものを。人(ハ)存(ハ)
よ。志(ハ)氣(ハ)帥(ハ)。氣(ハ)行(ハ)。充(ハ)。しかるに。志(ハ)氣(ハ)。
氣(ハ)。ものを。耳(ハ)目(ハ)口(ハ)鼻(ハ)四(ハ)肢(ハ)。ものを。ものを。
本(ハ)文(ハ)を。ものを。ものを。
いかんの書(ハ)。氣(ハ)。ものを。孟(ハ)子(ハ)。拙(ハ)。浩(ハ)然(ハ)。氣(ハ)。救(ハ)氣(ハ)。居(ハ)移(ハ)氣(ハ)。
等(ハ)の說(ハ)あり。養(ハ)氣(ハ)。ものを。先(ハ)傷(ハ)拙(ハ)。ものを。
しかるに。ものを。拙(ハ)を。孟(ハ)子(ハ)の兩(ハ)卷(ハ)。一(ハ)義(ハ)。仁(ハ)義(ハ)
の二(ハ)字(ハ)を。拙(ハ)出(ハ)して。七(ハ)篇(ハ)の旨(ハ)。ものを。

仁義の功用をあらはす物なり。仁義と和すれば。別に浩然の
氣なしとあるを。故曰。是氣也配義與道。無是餒矣。又云。
是集義所生者。非義襲而取之也。出典ふるくかんえ人
もろ〳〵
養氣。仁義の功用をとなへ。義のもろ〳〵と重〳〵しき。
そもそも人は配義與道といふ。集義所生といひ。仁義及道。大抵
人のこゝろを初めて起すもの。不仁のもろ〳〵と。義なたらぬ
ものもろ〳〵。多し。強ふるもろ〳〵義とのこゝろ
もろ
浩然の氣と書てしかし。人を無て覚るもの。徳
なたり何ぞもろ〳〵をもろ〳〵あるべきの物なるべ

ふをんと初めさるべしあるべしとなり。又孟子ふ雖言也しあるふ
ものもろ〳〵。言語ものもろ〳〵。出でもの人のもと分るものもろ〳〵
ものもろ〳〵あやまるあり。異端異説の功用の教強ふ
たくんと初めもしくはあるべしもの孫丑孟子ふ問て不
動心有乎とのへるふ孟子ふ問有と言へるあるふ我知言我
善養吾浩然之氣とのへるもの出でふ。出でしかり。
孫丑ふ夫子加齊之卿相得行焉雖由此霸王不異矣。此
則動心否乎とあるふ。曰否とは。出でふ。議論出でもの
るあり。齊の宣の相位は使るべし。霸王の業とも成ぬ。
を以て出でふ。あるべし。出でふ大任なり。
さるべしをあるべしとなり。初めるべしもの

あり。孟子此任あるなり。ひとくに。あらつと初さんや養し向ふ。
徳ふ天下古今の要を学問を学問さと考へ身と行あくんを
治の根本たるところ。ひとくに迷ひさえれくいうつを。
学ばく徳薄しく。其学問あるうしさへいうのあるしくを。
きろつと初とてあり徳ふあるりく我知言我善養書法徳く
気しいつを。知言しつて上聖賢ろ下諸子百家の言よるま
て。あをを邪淫先のりけとをうく。よをとるふれることとれいを
をふくいろく。こをふくいろしあるとをふ弟へ。
さく学ばくに君一身とりく始めあるく。一毫をせまりれることせく
をへ。弟子の若ふ対して。ひうあうのるとあるくしいくをそ邪
のりとさまへよとうつくとるあり。天下の正位よ立天下の廣居

よ居。天下の大道と行ふりへ。又何るとをち始ばるくしくあるん。
ふを学問の効験。徳身の效験あるくだく一公面のをるくあるくるの
てくふんとうくをあるくるよあるくを
後世よ不動心しつるを。徳るの上あるく効験のりく始めるへあ
たるを。孟子ふ孫丑の若を則夫子過孟賁遠矣しくるふ。曰
を不難しあるく。告子小宮黙孟施舍るのるを挙くさく。
ニをろ。をへんを初るをるあを。をるをあるくだく初るをるをへ。
効験のりあ決しつるあり。告子ふ不動心をを二んを制して気を求て
んをあやまるとをくそれ必いまを四十のをひを及ばをしてを。
と海北宮黙ふ及ばるを比て必勝を求るくまくしてんを初るをす。
孟施舍ハよ求をるをくまくしてんを初るを

とも。皆血氣の勇をいふなり。孟子の所謂不動心とは。
孟子曰。我知言。我善養吾浩然之氣。浩然の氣とは。
其爲氣也。至大至剛。以直養而無害。則塞于天地之間。
大抵不動心とは。大人則慕之。説大人則藐之。
孟子曰。我四十不動心。告子曰。不動心有道乎。
告子曰。我知言。我善養吾浩然之氣。
公孫丑曰。敢問何謂浩然之氣。
曰。難言也。其爲氣也。至大至剛。以直養而無害。
孟子曰。我知言。
公孫丑曰。何謂也。
曰。詖辭知其所蔽。淫辭知其所陷。邪辭知其所離。
遁辭知其所窮。
孟子曰。我四十不動心。告子曰。不動心有道乎。
告子曰。我知言。我善養吾浩然之氣。
公孫丑曰。敢問何謂浩然之氣。
曰。難言也。其爲氣也。至大至剛。以直養而無害。
孟子曰。我知言。
公孫丑曰。何謂也。
曰。詖辭知其所蔽。淫辭知其所陷。邪辭知其所離。
遁辭知其所窮。

唐の李光弼は。安祿山の反に。河東を以て。
唐の李光弼は。安祿山の反に。河東を以て。
唐の李光弼は。安祿山の反に。河東を以て。
唐の李光弼は。安祿山の反に。河東を以て。
唐の李光弼は。安祿山の反に。河東を以て。
唐の李光弼は。安祿山の反に。河東を以て。
唐の李光弼は。安祿山の反に。河東を以て。
唐の李光弼は。安祿山の反に。河東を以て。
唐の李光弼は。安祿山の反に。河東を以て。
唐の李光弼は。安祿山の反に。河東を以て。
唐の李光弼は。安祿山の反に。河東を以て。
唐の李光弼は。安祿山の反に。河東を以て。
唐の李光弼は。安祿山の反に。河東を以て。
唐の李光弼は。安祿山の反に。河東を以て。
唐の李光弼は。安祿山の反に。河東を以て。
唐の李光弼は。安祿山の反に。河東を以て。

そのハ。詩よりそのあらハ。ひとうあるをたゝしうふ。よ。ものハ。ひとつとハさとくとゝ。多〳〵。ものハ。ひとつとハさとくとゝ。多〳〵。ものハ。ひとつとハさとくとゝ。多〳〵。

あ〳〵ものハ。ものハ。〳〵ふくんと。初さとの根本あり。曾子のいとのあり。自反而不縮。雖褐寛博。吾不惴焉。自反而縮。雖千万人吾往矣。

いとうも。此ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。

ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。

仁義の功用といふよ。あ〳〵ものハ。

ものハ。

ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。

たあり。孟子よ。内省不疚。何憂何懼。中庸よ。内省不疚。何恶於志。

不疚。何恶於志。

くし〳〵ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。

子。養よ。告子の言。〳〵。殺ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。

ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。

ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。

ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。

浩然の気と。書ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。

ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。

ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。

孟子よ。我知言。我善養吾浩然之気。浩然の気と。

ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。

ものハ。知言とハ。系辞よ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。

とさとあ。元。雅海矣の。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。

ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。ものハ。

つゝく。「聲」とは聲をとゝのへんして言をもつのゝ心へをゝのゝなり。
古へは聲ふの事の表なり。ゆゑに雅正あるを聲とし、邪正あるを音と
用ひゝくは必事実ふあるものゝ事をゆへ言と聞て色
邪淫矣のもつゝと初りとまんとゆゑ知言のつゝあるたゝへ揚ふは
る我と仏くゝうゝゝ地をひ雲ふは義を仏くゝうゝとをひ若ふ
は不淫於人無求於氣不淫於言無求於人とうゝゝをひ詳ふ
は興民並耕と仏くゝうゝ地をふゆゑあるをくは人ふを
示ゝ侯は君公ふを仏ゝをとゝめんと地をふは大任あるゝこの
ゝゝれあまゝこのゝ事をと聞くゝれ拾せんとをゝふは君ふ知言の
定中ふくゝは何をとうゝゝゝ何をあゝゝゝ何の就ふくは後
ふをゝあゝゝ何の就ふくは後ふ害あんとゝくゝとをゝゝ

をは心ゝうゝくゝ南ゝゝゝんと初りをは孟子は知言は大任ふ於ふ一のゝ
あゝ孟ふは揚ふゝゝ事をと聞くは孟ふは必無若ふゝゝんゝく
とをゝう若ふは雲ふゝゝ人をとゝゝゝは必無又ふゝゝんゝるとをゝう若
ふゝゝ事をと聞くは孟ふは必仁義と稱をゝるとをゝう詳ふゝ言
と聞くは孟ふは必大をと辛くゝをゝるゝとをゝる独ゝとれは大
任ふあゝゝくは孟ふのゝゝ事をと聞くゝゝをゝゝゝゝゝあゝゝゝや。
故ふ我知言我若養若浩独ゝ氣ゝゝは何をくゝを。
事実ふあゝゝくゝ浩淫のゝあゝゝとゝゝゝゝゝ

先儒の說ゆゑに言の詖淫邪遁とさだめていふそんの厳陶離
窮屈とさだめあるとまたこれをいふ。まことは生ずるに害ずるに政
ゆゑに解せざるべからざるなり爻の言と抗
見るゆゑ。たとへばその言の詖淫邪遁とさだめその弊の必厳
陶離窮屈とさだめまたこれをいふ。爻は義を主とするゆゑ
ゆゑにまことをそなへ詖辭とはいふそんの厳ることを
まことのそのこんの術のうへあるべきうあり。義の意は詖
辭と聞くまことと政をわすれることをまことのゆゑ
とこれは厳ることを考ることゆゑ。陶淫淫の上にくのまことのうへあるべし。
ゆゑに爻ゆゑに害ずるに政害ずるにまことのうへあり。或の云
爻は生ずるにあるゆゑんの厳とまことのうへ

しかるに曰爻は知言のうへあるまことを生ずるに害ずるに政と
あるべし。言はんとうもるべきあるまことは其こんの害ずるに政と
とこれは内は言はんとのつねのことをもるべきあるまことは其こんのうへ生
いはんとのつねのことをもるべきあり。此一句はたんのうへ
とまことのうへいひのこと

或曰。志と氣といふことは人曰。孟子の本文は。志は氣を帥や。
氣は體を充やしまことはそのうけをあるべきあり。帥
とは將帥を義ゆゑ。大將のことあり。志はたとへば大將のことあり。氣
はたとへば率從のことゆゑ。大將のこと一法はつねにまことのあり。氣
とはこれをもるゆゑ。志のむかひはまことのあり。氣
は志氣を帥やとはいふ。まことは志をこれをいふ。氣は

かゝはるさまをいふ。志とは心のゆくをいふ。意とは心のゝ力といふをいふ。意とは心のゝ力とはいふなり。意とは心のゝ力とはいふなり。意とは心のゝ力とはいふなり

物と聞。四肢に動きたてゝ、くゝてゝと識ゝと。一の上にて、そこに別々
なるもゝと何を一氣のたてゝ、さまゝ、ひろく、ひろく、ひろめゝく。充たゝ、たるものとて、言ふ、ひろく、ひろく、ひろ、おのお
孟子に充の字多くあり。充類至義盡やと云。充仲ひろく擴
云の類。何を此例なり。畢竟氣に視聽動作のもとゝなるゝゝて、
古義に總要と註。このとけなり。又接とふ。ただ人に仁に側隱の
充ゝ云ん。側隱のんのとゝ、ひろ、ひろ、ゝゝ、ひろ、ひろ、ゝ、側隱に深
ゝゝ、ひろ、ひろ、ゝ、ゝ、ゝ。ゝもに、ゝけ、ひろ、ゝ、ゝ、ゝ

といひおとの類なり。そもそも山の性は草木をはぐくみそだつるものなれ
ども。岩石ばかりなる山は草木をそだつる。草木をそだてるなり。
つまり夜は夜氣のめぐりあつまるべきなり。萌蘖のめぐりあつまるべ
き夜氣なり。牛羊の牧場となるべきなり。濯濯とは草もなく山
なり。故に孟子此章のたとへを牛山の木と仮てたとへて人の
性善なるを示す。性善と生長とをかけてかたるなり。
そもそもけだしこれは畢竟仁義をもつて夜氣をたとへ
義と存とをもつて夜氣と存とをかたるなり。集註の本說に氣
生日仮寢薄。而不足仮存仁義良心之萌。とあり。
なり。猶ほ小圈和尚李延平の說をひく。夜氣金清とあり。又濁
虛明氣象自可見矣とあり。そもそも夜氣とは

とは。そもそも工夫とは何ものぞ。集註の本說にいはく。
集註本文に曰仮寢薄とあり。氣とはいはず。
本文に夜氣とあり。夜氣とは仁義を存とをかたるなり
也。猶ほ牛羊の牧場の所謂仁義の。無欲の境と仁義とを
ハ。此章の註に曰。倒よりつ。全く夜氣なり。
楚緯遠遊篇小云。氣孔真人。於中夜存。虛仮待。
云。先庶類仮成。此德云。門。朱子の註に云。祓者當中夜
虛靜之時。自存於己。而不相離矣。如此則於應世之勢。皆
虛仮待之。於無爲之先。而庶類自成。蓋虛成之
若芙蓉。不過如此。奚祓仙之要訣。此一切ハ中周太靈王
の古文に言ふ。の語とあり。李延平の說ハ。小門の本の語

[illegible]孟子の意よそしら[illegible]

訓幼字義巻之七終

訓幼字義巻之八

聖賢九七則

聖とは人の心に徳の名なり後世よりたゝ人の名とせり皆人のあやまりなり書経の洪範に五事と叙て肅乂哲謀聖とあり。周礼に六德とあるに知仁聖義忠和とあり。論語に若聖と仁則吾豈敢とあり。何を徳とするに仁義忠和なるべし。孟子に聖人稱せらるゝ人品の名はあれ共聖を人とするは仁なり。徳の名知仁勇也。仁徳ある人をいふ。仁者仁人とあるべし。

論語に聖人吾不得而見之矣。得見君子者斯可矣とあり。

孟子に伯夷伊尹柳下惠を古の聖人と稱す。孟子に隘与不恭若

子不由やしかつてこれをふくいはゝ君子としてはゝ聖人にうるれはこゝ
ろ。ゝをを論孟の二書に有とるゝあゝ須さと不用ゝうゝと。
聖人としていはゝ知の称君子としていはゝ中庸の名あり。道の上ゝく
もとその知をさとりしるいはゝたゝひゝ偏あるゝ不あるゝく。中庸
ふまづゝしていはゝを聖人としていはゝを道の知と称
やとしていはゝを物てゝ中庸やゝ用ゝくゝあるいはゝ君子ゝ称ゝ。
故に孟子に。伯夷伊尹柳下惠と聖ゝ清聖ゝ任聖ゝ和ゝ
称せるゝいはゝ君ゝ道の知と称とさゝあるゝものゝ猛ゝ
中庸ゝ用ゝをいはゝ何を一偏に拘らゝるゝ不あるゝ少ゝ隱ゝ不
恭君子ゝ不由やしかつてゝ君子ゝ聖人としてゝ君子ゝ聖人としてゝ
為ゝ。君子ゝいはゝ聖人ゝ為るゝとしてゝ為あゝ

伊川先生曰有欲ゝ聖人ゝ志而後可与共学ゝ聖人ゝ人
偏の拘ゝをいはゝ聖人ゝ為ゝ拘ゝゝ物ゝ猛ゝ
者聖賢ゝ人ゝいはゝ君子ゝ君子ゝ聖人
ふゝゝゝ聖人ゝ為ゝ聖人ゝ為ゝ。後世の学問ゝ物ゝ目あゝと
して。文章ゝ為ゝして。ゝふゝ聖人の地位ゝ為ゝ人ゝ
をいはゝ佛家の勤行修煉ゝ。佛地ゝ為ゝ聖人ゝ
ゝ為ゝ。古ゝ聖人ゝ為ゝ。誰ゝ聖人ゝ地位ゝ
ゝ聖ゝ人ゝ為ゝ聖人ゝ為ゝ。聖人ゝ
あゝ。君子ゝ志ゝ知ゝ用ゝ学ゝの上ゝ為ゝ
物ゝ中ゝ。光成重厚的の氣象あゝいはゝ誰ゝ君子
ゝ聖人ゝ。文純熟の後ゝいはゝ賢者ゝ聖人ゝ為ゝ人のあゝ

る不の名あり。ものの形をとりて物あるを明らかにせんが為に人を為学忘れざる標準若猶ほ不也自有所至とまの言なり。
古書ふるきを君子とし聖人といふ。
愚一

後世の聖人賢者とて甚階級のあるこのやうに物しれたの書よ必拘こふあり。次に異端に仏老と聖人に称す。論語よりの賢人やしるべし。
孔子の聖と宰我に光録う賢あるべし。此て論孟字義論衡の説を偶符合と又韓文公孟子雖賢聖不得位と
いへり。此類多くあるべし。
聖人の法と称とする。論語よ仁且知文子既聖とし人と
孟子よ大なる化と称聖と人と。後記よ作者謂之聖。

述者謂之賢と人と。大学章句序よ致明睿知能聖と人と。宋朱の諸儒の言ふ所よ畢竟盡天地万物を毫一毫人欲
私と境界と聖人と為り。此内ふ仁且智と人と聖人の
全法と称とする人へ。孟子よ知者無不知也仁者無不愛也
と。其下ふ光輝と知光輝と仁と人と。そもそも義
いよいよ分明なる化と人たる聖法の廣く物よ施ずと。
後記よ作者謂之聖と人へ礼樂と制作せる上ひとし。
そもそも智の一偏よ法とし人へ致明聖智と人と。
盡天地を無人欲と聖人と人へ明鏡止水のごとく一
点のくもりもなく清淳虚明なるものと人へ聖人一固天
地と人と何を佛老の説ふ法と基づく。聖

賢の言ふあり。法。先傷ハ仁と無欲の境界に見てとるふうて仁且智にして同じ様なるものなり。賢の所謂仁にしてものハ必ず仁者の法と云ふ。無欲にして仁者ハ仁者の法とけちらひなり。此に詳なるハ性理学の條を論ずべし

聖人と生知安行とにして人の至て学べきなり。聖人ハ学問にして事をなすべ。

[illegible]

傷の說と。大ゆうハ[illegible]聖人にして学ぶと法にもろ人ハ学べ。聖人にして学ぶと法にもろ人ハ学べ。孔子曰十室邑必有忠信如丘者焉不如丘之好学也。又曰。黙而識之学而不厭。誨人不倦何有於我哉。又曰我非生而知者好古敏以求之者也。

聖人の学と法にもろ人の学のあり。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふ。心ものの法を生れ付くものの下れるあると。學問修行して
ものの下くふ分別を離れ。雖も學ところ行はれい。
聖人よりてうへ〳〵も〳〵先たまへるあり。論語志學章に孔子云。
孔子自言其進德序如此者聖人未必然但爲學者立法
云〻。莊子の說いやしきあり。十室の章の註よも文子生知篇未
嘗不好學故言此以勉之〻あり此學の說を意何をいひ
あり。何を聖人の意とあり。後ふ中庸より生知安行とつて
あるいはいろ〳〵たることのあり。學問とまことも
〻て法とあるとつてあり。たゞ人の介介底の人を物とし義
用あり生れ付いの稽古修練とあるの人〻にはこのあるもの
工夫いとまとふもとしてつゞきこのうちんもいの稽古とまことうしし

聖人を見たる生知安行とつてもの顏あり〻。學とはこのあ
るあるいの前人の物ぶとふあるこをもの強明睿智の法學とま
たこのうちにあり。戒慎恐懼の法。又前人の物ぶとふあるこをも
後容自得の境ひ謹と法とこのうちにあり。生知安
行と稱とあり。あるとの聖人の學とまこの法とつてあやまり。
堯舜性之湯武身之とこのうちにあり。堯舜の性の
まことふもとこのひてもの學とまこの法とつてあり。舜の舜
後人〻こをもとつてあり〻。
先傷の云聖人無優劣有則邪聖人又聖人と一國の
とつてもとつてもこのうちにあり。古人の意とあるこの聖人〻稱とこ
ろへ。一箇の月に比ふあるこのあり。大小偏全のあり。たゞ一

拓あつまりて人あつまりて他の化とゝなる。毎年くの穀暑氣候に拓あつまりて年をあつめ西年をあつめくの不ハい多くこゝろの孫をこゝを造化教育の功に於くい者ゝ多し。

聖人を示人あつ。辭聖人よりおくのうつをあるへし。孟子に舜由仁義行非行仁義也と。萬章の次に禹惡旨酒と。次下武王周公もまた。名一法と拳く稱せらる。その盛なる所と。ゝろ又堯舜性之也湯武身之也と。これ多つ聖人の中にも優劣得と不得とあり。法をこゝを又は。さ不あつ。伯夷伊尹と孔子とのまと拳く。有用與と同。孟子の言に得百里之地而君有之皆能以朝諸侯有天下行一不義殺一不辜而得天下皆不爲也。是則可とあつ。法をいまこゝ

下あるゝとまつ。又きに孔子あつ。法こゝ不聖人の法とまつ。又へ。程子はあつ。法こゝ聖人と人こゝ生こゝ聖人ゆへ上のこゝ小無優劣とつ。そもゆへ伯夷柳下惠と聖人こゝ稱とつ。傳者のあやまつこゝ。法もこゝ孟子きこゝ不生說あつ。あやまつこゝ。前は略こゝ論とつ。あつ。その名まつ。

君子小人　九四則

君子小人こゝ。位の貴賤不拘こゝ。上は在こゝ生こゝ人と君子こゝ。下は居こゝ。法者と小人こゝ。ゝ人こゝ。ゝ人こゝ。ゝ小人あつこゝ。論語は君子こゝ。德風小人こゝ。法草あつ。孟子小こゝ君子こゝ。吳云黃于亟以近君子こゝ小人草食壅將以

迫ることの小人ことの類何を位のるゆふ然くいふをもふは
つくいへ人のうゝあゝよ然くいふ論語よ君子周ゆ不比小人比ゆ
不周ことの類あまくあり何をもを法よ然くつふ校よ先傷ら
在位有徳の差別あるを上後世ろ月を有法の称ことゆる
ゆる和多くい在位よ然くのあるふゝあるをい論語ゆくのを
へへ多くいそのうゝ諸侯大夫のるゆふ示ゝたまう面よ在位よ
然く君子ゆくまふゝ多くあるゝ
君子小人いりて在位のゆあり独をゝを下あるの人ゆくを
氣象老成ゆうく智東ゆ別をあり人のよをゝをるつさ人い
を位ゆゝいへゝをまくちをと君子ゆゝをいを法とるゝ称
ゝたゝをのあるゆをのゝふいうゆさ法ゝ鄙猥褊急ゆ

て下人の氣象あるゝのへ位よあるゝのへゝを又ゆをと小人と
いゝを人ゝあるゝとゆやゝゝゝゝゆあり賢不肖善人不善人ゝゝゝ
へゆゝゝゝと
君子ゝのゝゝくへ右註疏の中に君一方而子陰万民ゝあり此説と
ゝゆゝゝあをゆくへゆの字たゝ虚字ゆくゝ後世の苛字のゝゝ
右の名称ゝ見ゝゝゝ王前ゝの君子齋記よゝ大子諸侯謂ゝ君卿
大夫士謂ゝ子ゝゝゝ法世の説ゆをゝゝゝゝ方ゝゝゝ人ゝ称
ゝて君ゝゝゝゝゝゝゝ多くあるゝと合くゝゝゝ人ゝ君子ゝ
称ゝゝゆをゝゝ諸孟子義此註よをゝゝ人
人の等同ゝゝゝへ君子のゝよゝゝゝ小人の域よ為ゝゆゝに
ゝゆあり故よ論語よ毎ゝ君子小人の対延ゝゝと並挙ゝゝ相

反しくぐうくうくうく

云云少子（モト）の学（ニ）于耳盤（ニ）にあり孟子曰湯学（ニ）于伊尹（ニ）云云
孔子曰吾（レ）嘗（ニ）日（ニ）終（テヨリ）夜（ヲ）以（テ）思（ヒ）矣（ヲ）云云
若（レ）観（ル）古人之象（ヲ）云云堯舜の道（ヲ）祥昌言（スルハ）
い禹の学（ニ）の詩（ニ）の文（ニ）を何を学のかの大概乃性
命文章等のこと聖人上世の雑人のひとしいふことをもって
世間通用しくあることの聖人若子あるとなく號令をもって
こゝ教化を示したまふ後世の学者の経をもって先くあゝ
ゐることなどの何をあるべく準ゝもって
学問の綱要は文行忠信の四つ孔門の弟子夫子
の教をもって先くこと四つのことを要ゝと文といふ人聖賢の
遺文今の世にいのこる書籍のうちの古人の言行をあらまして

今日の法則ゝ多くの古人のひとはあるゝ次秦漢こ
のゝ詞章と文章ゝ云ゝ人あれと言語いふ文は辞命ゝ云文ゝい
いふ業の燃手（トノ）を有文章ゝ夫子之文章可得而聞也又は文質
彬彬ゝの類は何を礼楽ゝ云ゝ先傷あるをもってゝ錯（サイ）
説あり行ゝ人の行ゝの実ゝ百行ゝ百行ゝ孝ゝ弟ゝ
行ゝ他ゝ忠ゝ信ゝ盡ゝ信ゝ言行のこと
あるゝ多くゝ夫子の教ゝ百行の内ゝ孝ゝ弟ゝ
せゝ孝ゝ弟ゝ孝ゝ弟ゝ孝ゝ弟ゝ四つのゝ人の
賢長ゝ然ゝ孝ゝ弟ゝ学問ゝ志ゝ人ゝ墓ゝ勤ゝ
あるゝ孝ゝ弟ゝ孝ゝ弟ゝ夫子の教ゝ指ゝ
あるゝ夫子ゝ博文約礼の教ゝあるゝ博文ゝ礼ゝ文ゝ礼ゝ人の

分とはさしろ規矩準繩ふくべ。百物の法とゝとのゝ孟子の知言養氣の說あり。知言ハ言ゝ人言の是非淫邪と辨へ知る。養氣ハ我吾養吾浩然ノ氣ゝゝ仁義の氣ふ。れのつゝ愧はそらゝてゝあれてゝあり。是又物や。独是ハ聖賢のゝ人もらくゝるもゝ。學問に依るゝふ法まるゝてゝ決要たり

いふ人學問ハ經史の別ふ。ゝ。ゝ文と学ゝゝ書と讀ゝゝ。漢ハ

ゝこのゝゝ。ふ人聖賢のゝ言と經ゝゝく。後世の記録と史ゝ名つけ經史の名ふ。そのゝ老子莊子の類ふゝ稱ゝる書多くあり。佛經ゝを通ゝゝく諸子ゝゝまゝく諸儒の詩文著述あまゝくあり。是とあつせゝく。經史ふ系ゝゝひゝく。廣

の附四の文庫ゝゝ。四庫の書ゝゝそあり。經ハりゝゝふ學問の女史ハ古今の變とあゝゝ。後儀文章の是非伝の善悪人物の賢否善そふゝゝゝゝ。そゝ大綱領大治丸事の扶益治章ゝゝ

ゝとあゝ人ゝゝ。經史ゝゝ人ゝの好尚ゝ。ゝ次ハ人物ハ門のゝこゝふゝゝ。經ゝゝ出ゝに出ゝゝしゝゝのハ史猶ゝ讀ゝ無益の故ゝ

ゝ。是ゝ。史書とゝ。史書とゝ。ゝ。ゝ。

あらう。一箇の文章と化らく。法世のことふを中にいそこで
くてうろあるものあるまり。法也。ことを大脈のたひあり
やあるとと雑へもてみらふ信用もろ〳〵ぬるたひうとあや
まるの多し。人倫日用と同道ろ〳〵ぬ。望人のの乃の正乃ろ
てしまるく。望人の言行と親能しるとさい諸子百家の乃邪
淫者とうきまへ。さあ〳〵我一人の科笞ふく。見識を立
ろへ〳〵

論語に若子学乃則安人小人学乃易使やとあり。孟子に
ま若用乃則安家乃業。ま乃学乃則学乃忠信とあり。望
賢の書に学問のもろ〳〵とのまてしあくのこと。法也。ことを法
世学問とろる人。そもそれふもろ〳〵と見ろ〳〵人ろうてい。博

奕飲酒驕吝強刻あること。一文不通の人に非ら。又世上に非ら学
問せさる人に。平生の業能なきまろく。あさこれろ〳〵これ人あり。学
問とともい。文字に通〳〵古今とろれの利益あるこそそれか
しのもろ〳〵と見あるこ。或い人〳〵と接ろして学問とさ〳〵ふ人あ。
ものもいろ物ろ同あくたひろ面あり。博奕飲酒して父母乃
生ひとう人〳〵ろいぬ世上無学の人不肖のろ家あ〳〵多〳〵さ
てあり。学問とろふ仏合ひ〳〵〳〵。学問の罪といあ〳〵とたく
学問とともい。家能ろ〳〵ぬ。己とあ〳〵く人とさ〳〵。学と
そ物〳〵く悪とあ〳〵。そもろ〳〵ぬ。ろ〳〵のあ〳〵て人に
あ〳〵く世ろ。ぬ又学のろ〳〵のあやまるあり。学問の罪とあ
らとい人。所謂学問〳〵と易ふ。文字頼子好学の言と物〳〵

て不遷怒不貳過しのるゐへつ。君子と小人とをもとるゐの
てゝあつ。又子夏のてゝ学ると知るゝ不賢ゝ易ゑ。若又法人朋
友ふまゝゝ。ゝゝとゝ。ゝゝ学問とゝ。ゝゝ。その不
学るゐの三者。又へ文子一要のゝゝ。ゝゝ対へるゐて忠恕
而已矣しへつ。文子顔子語言志の章。並ゝ貢のいゐる我不欲
人之加諸我也。若亦欲無加諸人とへるの類。何を世ゝ変ゝ人ゝ
法ゝさあゝ上ふゝ。人ゝ廉恥とせゝ。人のあゝあるゝと当一日し
てそゝと出ゝ学問ゝゝて。若勇とゝつんいまゝ先ゝゝゝ
ゐあつ。後ゝ上へ上ゝゝゝくへ人とあゝもゝ。下ゝゝて使ゝとゝ。ゐ
ゝゝて若学忠信のゝゝゝあゝゝ決定ゐつ。学者の学ゝゝ
んと付ゝさるゐつ

仁義礼智ゐゝひゝ中庸等のゝゝ。何と称ゝあゝとゝ。再
ひあゝふゝゝとゝ。ゝかまゝ一ゝゝあつ。恒ゝゝてゝあつ。恐ゝ
てゝあつ。聖賢の書形ふゝ法あつ。ゝゝ。何ゝゐふゝと。
ゝとゝ。ゝ初ゝ。ゝゝ多法ゝつゝゝゝゝ。書経高書咸有
一徳の篇。惟尹躬暨湯咸有一徳。ゝ。初周不吉徳二三。
初周不吉又云。終始惟一。ゝ乃日新。又云。惟和惟一。ゝ。ゝ筆の古文尚書
ゐゝゝと。後記の内ゝと引用ゝあつ。ゝゝゝゝゝゝゝゝあつ
と。護語ゝ夫子ゐゝゝ貢のゐゝ。若乃一以貫之と示ゝたゝ。又攻
乎異端斯害也已しのゝまゝ。一要の章ゝ反対ゝて。若理の説
ゐつ。何ゐゝゝと多法ゝ。ゝとゝもゝとゝ。ゝめたゝ。ゝと合せゝ
若ゝ多乎哉不多也しへつ。ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。何

れくらるるものなくしてかくのごとくなるべしと。孟子曰。新語曰。暴十寒のたとへ。斉宣王の戒。水車薪の論。何を云ふとなるべし。故云。仁亦在乎熟之而已矣。恒と
いふるは。何ものなりやを始終のことをいつをぐくふ勤るとなり。人のやまひは。且るとなき苦しみ。いくたびもあしふは始てちく廢却とる
てあり。人は一つのものをたゆめよはきをふ出會く後は深
きをふるものをと云恒とは。易は六十四卦と云へり。恒の德と一卦
なり。夫子曰。不恒其德或承之羞と云へり。亡而為
有。虛而為盈。約而為泰。難乎有恒矣。恒とは人のこと。
忍とは何ものなりやを知んとすることなり。人ならるものは欲
よりこれを血氣よりこれを親雖も接遇すべしと。人言はんと

してるとあやまるものなり。初は忍性とは人欲なり。忍
ひくがいまふやまるものなり。又人の家を命打をひけ。てこ
を急ぐとなるふそをとたづねしことをひろめることを一朝
の怒をもて身をつとめなくして親を殺す者の惑ひなることをつきまて
知んとなり。故書經君陳篇。必有忍其乃有濟。有容德乃大。
又論語。子曰。小不忍則亂大謀。忍のと人はるものなり。
そなるのてはこのこと字の字にあつることをふあることを又引て條
目とを為ることをもとなるべしと。ことを為す書あつてとくて
ちうう
學問とつてくはとこの論あり。大なる物をは
大なるものあり。一生のあてどつとこころ。やしてくるれるものなり。

まづ文不通のもの文字をもつてくゝりあるいそぎ
ての利益あつぞ上は文字雑々しくこ綱まきのつけとまれ
へ智識を学ぶべくものとしてろくとつさぬ人のんろろをまらく
さへんぞまあ次を上は又聖賢の言葉を一たび今のるとも見え
悟しくせの利益まあるれしまいをまらしいまく虚大あるこれ
ろうあるつくく賢人君子の境よいろしくとをやをまあ以れ
ゆうてをくむしてさ不あれまあ次を者不如好之者好之者不
如楽之者しのまへつをらさ上をを信をまをまあるしまあ
大抵世間の学ぶ者ろ人ひ地ぶををいを益あるし
ひをひをつしく我身と見をしくへ人をを者をたぐしものなら
ふあるとひ地あれふををしく物をへそをわこの利益あり故

よのまへ譬如平地雖覆一簣進者往也又教十年学問と
物たる人へ此上に治をあくをあるるしあるしく物をひ人をりをや
しくぐるものくあざるるしくあるたよあるをはををこの不みく
退学してゆしくれへそをわこの不学あり故よのまへ譬如為
山未成一簣止者也也学ぶ不及於恐矣
をくしくへつを又進者如斯文不含書状しあのあるくゆふたえ
まるく治をむへくしあり聖人人よ学をををめたまふしまを
しあるれるあ
後世の学問よ一旦録於しあるしあり工文積累の上ば境よいを
世へ所物の表裡精粗よ通達して聖人の地位よいをまをを
境よいをまをへたくへ学ぶ忠信の行あるくへいれくりんをあるか

義あるべし。人は生まれつきて、中に善言をいつくしむ。畢竟人ごとの生まれつき、淳朴の人、醇生を養ひ、人ごとの生まれつき、傷の敗を生ずる。ふるくあらず。古聖賢の言葉を考へ、上を論ずるなり。

一生のあいだ、つつむ能はずして、ものをいふ。又、交不亟のれ人をくいたることもあり。或人は、そもそもの人をくいたることもあり。ふく覺悟をしてあり。絶らく。何のわくもなく、日本をうしなひ、ふくしてふくしてあるまゝ、やがてふくしてあるの上、一旦窮迫してあるとこそ、何のさまをけこなたとあるべし。人所謂先覺後覺とつゞけなり。

一旦窮迫とは、人の招のあるとふあるとを、先覺開とひて、いまゝ、人間とは、人をいふ。

ゆゑ、忽空域ふいてゝ、完竟の平あり。古聖は、後の投機、悟の合ふ。所謂一切直入如來地とつゞけるものあり。たゞ人の合ふあり。殺憤忘食、樂以忘憂、不知老之將至云ふ。空人をいつとゝ、つゝ、ものゝつと悟明の日、一切人ごとの。

又、學問として、氣質と變化とゝ、說あり。人の氣質は變化せずとあり。說あり。古れは何者を指ゝ、ゝ說とし、人の生付は剛柔緩急さまゝの平あり。ものゝ、つゝ、ゝ、ものゝ學問をして生付の偏をあらため、後のものゝ古聖をたけまり。急あり。ものゝ古聖をゆるゝ。中道よりひくゝ、ものゝ學問あり。たゞ生付をまもる。ふ。ゆゑ、ものゝ

八学問せざるふ志ゝと強ゝふるゝ。子路の性い人と為ゝくと
ゝもてゝ生付ゐるこゝ也と退け再来の性へ退ゝく物てゝひろ
出生付ゐるこゝ也ゝとゝゝめゝまゝ。夫子人材と甄陶ゝるの子路あ
ゝこゝろふ論語よゝろゝ。ゝ也ゝろゝ下つゝ董安于ハ生付遠慮な
るふゝろゝ。ゝろの強と学ひ西門豹ハ生付偏急ゐるふゝろゝ。ゝ
ゝゝと学ゝ。ゝ也ゝと合ゝ常強とゝ今古の英傑ゝ。なゝ。
氣質と変化ゝるハ学問の当要ゝるゝ。強ゝゝと人
のゝ才学のゝ。ゝゝ。ゝ本のまゝゝふゝ。
松ハ故ゝ行ゝゝ人ゝゝと。茄ハ故ゝ化ゝゝ人ゝゝと生付ゝゝ
て。諸人ゝ指ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
故ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。夫子の教のゝゝゝもゝゝゝゝ。

諸子の服膺ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まことをなすこゝろなり。こゝを上世の聖人とされ、文子孔子
より挺生して、堯舜禹湯文武周公の道を、人倫の大法とし
世を治めしなり。孟子ふくこゝろなり。文子の道と祖述して、世を法
ふ。堯舜周孔の大宗、嫡流なり。周公ゆるまりて
位をあり。周公ゆるまりて位を得ず。孔子ゆるまりて位を得ず。韓子をして
にいはしめ、ゆるまりて位を得ず。孔子のたゝひあり。世を盛衰のたゝひあり。
をもて法のたゝひなり。秦漢このこゝろ失ひ、たゝしく。
世間の政事風俗、乃法学問の名ふるこゝろ、名利のみふるこゝろ、人の
乃ち法を六経の間に求めず。志ある人のこゝろ、漢の時は黄帝老子の
道学を求め、魏晋以来は仏法世を治ひとろく。聖人の乃ち孫蔵
室しこゝろ、世の傷者、訓詁と治る人あり。詞章と治る

人あり。こゝ聖人の乃ち傷こゝ世を治る人へ。董仲舒、韓退之等
教人をなす。漢の時より、人の性を定めこゝ仁義礼智信とたく。
又性を基質ひこゝ。嘗歌よこゝ。そのこゝ
のち宋朝よりこゝ。周程張朱の諸大儒世を治こゝ。虚無寂滅
乃説をもつ。訓詁詞章の陋をあらひ六経を祖述こゝ。聖人の
乃を教ひこゝ。仁義礼智の法を人
人未発の中、喜怒哀楽の発、乃を教ひこゝ。孔氏門の説なり。
の聖賢をこゝ。こゝ教をこゝ。
さこゝ。近代古今学変あり。こゝ。
あり。こゝ。

鬼神　九十三則

鬼神とつゝ。天地山川宗廟百祀の事。を祭と祀とをわかつ。而
まゝ。大字にて地のまつりを也とをわかつ。諸侯は封内の山川と
天子宗廟とをわかつ。士庶人は百祀とをわかつ。何をを祀とのかぎりの
あり。を内先祖の事にて。士庶人まつる。世教の事あれども。
直しくをとをわかつ。古を恩の厚きをもつてさきのまつりを又古
うつ聖帝明王賢人君子の世を功績ある人の先祖をあつ
ををとをとまつる。何をを正祀とつゝ。ぱらひあるをうを
淫祀とつゝ。聖賢の所謂鬼神ぶしまつり。後世鬼神の說皆ら
くあり

周禮大宗伯の職に曰。掌建邦之天神地示人鬼之祀。示
祇と同し。後說の示說の篇に。山林川谷丘陵能出雲爲風

雨見怪物皆曰神。又云。人死曰鬼。鬼神のことはをおくをもつ
又鬼歸や神伸やとつゝ說あり。音とをうく義をを陽爲伸
の義とをうを鬼神の示人の上に能くつゝ又を注に云。壇爲鬼
つゝ說あり。を祖をうを上に沼をうを。壇と作をうを。
鬼とつゝ。祭をを壇と作をうを。を示神とつゝ。又庶士
庶人無廟。死曰鬼。とをを世教に位をを位とをを廟をを
をうをうをうて鬼とつゝ。祭をを祭をを人を神とつゝ。中庸
發揮に。貴曰神。賤曰鬼。此等をうを。注をうを。又後說に体魄
と鬼とつゝ。魂氣と神とつゝ說あり。ををつゝ。何をを後說に
異あり。考へ

論語に。非を鬼而祭之。諂也。論やとつゝ。註に。鄭玄の說に。人神曰鬼

と云つ。祭神如神在と云つる。孔安國の說に。謂子百神と云へつ。
ちまたの下心〻を礼記の說に引て云へり。さて文字の
本義とくらく勇あるもの。そもの名分あること淡よく通
てけうこうこうこく多〻。又二字なれあるをくいたりけうをとも別く
おつてこれを用ひるものあり。古注疏に分則美惡別也とつくるあ
つ。鬼神のこゝろを此例にくらくこゝろ〻ちろ人〻
程子曰。鬼神者。天地の功用造化の迹也。近思録にもこゝ
のこと。又易傳に生化の迹也とくいたりけうをとも別く
をしるこゝろあり。朱子を引て曰。風雨雷霆日月
晝夜此鬼神の迹也。又曰。造化の妙不可得而見於氣
の往来屈伸者。以見微鬼神則造化無迹矣と生

化の妙とそのゆくすゑをかぞへ見るこゝろ〻ちろ張子曰。
鬼神者二氣の良能也とこゝ。朱子曰。良能とは說往来屈伸
乃理之自然。邪有安排造作。二氣則陰陽。良能自然とは說
陽二氣の往来して不思議なるを云とつくる。朱子曰。以二氣言則
鬼者陰之靈也。神者陽之靈也。こゝは程張の說をもとくこゝ
說と全依せられたりのみ。何ぞこゝを中庸章句に詳なり。大全に
朱氏遷の說を云。自造化言之專言之也。平分而言之
偏言之也。仁は偏言專言の說あるをくく。鬼神の内にもて
地人物を通してつくく偏はれ犯の上を統くいたるのちひある
こゝとをつくつ。宋朔の傷此鬼神の說あるまゝ〻のこゝ
程張の說陰陽生化の靈と鬼神といへる。容易不能得

[illegible]ものなり。そもそも佛者二世輪廻の說あり。
[illegible]佛者の人の識とるものは陰陽生化より
[illegible]て。各人不終の善惡よりして或は物となり或は人となり
て。三世十界の間を流轉すと說くなり。鬼神は陰
陽造化のあらはれなり。[illegible]
[illegible]程子曰。佛氏不識陰陽晝夜死生古今。安得謂物而上
與乎人同乎。葉采の註に。天令之流行。二氣之屈伸。欽氏推之
[illegible]。此はもとより程張
の說をもとにして。[illegible]
乃采採。人死の時收斂して鬼神となるなり。
[illegible]

問。鬼神致鬼神。遠之中庸。鬼神之德盛矣乎。
[illegible]の類。何をか天神地祇人鬼とは花はなるべきの
[illegible]陰陽とは[illegible]
[illegible]
[illegible]

褘爾于上下祇紙之ものゝ戸中雷行電と犯
るを曰ふ〻やゝ〻ひとゝうゝふゝるゝ徒と報んゝるふこれ
とをゝる今時の人宴客服の綢繆ゝ色とうゝる物の巢のし
めふをとをゝる古聖人情あゝる犯の徒のゝゝ世ゝふとゝ
ゝるゝる戸中雷行ハ宴の物ゝゝさのゝ徒業伸のゝけハ足
ゝと祇をハいゝる鬼祇ゝゝをハゝ德と報ひゝゝをとをゝる必在の後
とゝゝくゝとのゝ
或曰中庸ゝ鬼祇の德と称ゝゝ骸物ゝ不可遺とゝゝ祇れハ
ゝ地日月ゝる戸中雷ゝゝゝゝ鬼祇ゝゝのゝをゝる骸
ゝ後ゝゝゝゝ何ゝ徒業伸のゝけ足ゝゝゝゝゝゝ
章の旨基說ゝる古註鄭氏曰骸犯生也可犯而不有所生言

為物無不以鬼祇之氣生也生ハ為物の生皆鬼祇の氣ゝ
ゝゝゝ生後ゝゝゝゝゝゝゝ氣と為ゝゝ章曰ゝゝゝゝ骸
骸而物所不遺也ゝゝハ犯と為ゝゝゝゝゝゝゝ為物の
生皆鬼祇ゝゝゝゝ物をゝゝ物ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
体文のゝゝゝ体物ゝ無所遺ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ古註ゝ可犯所也ゝ註ゝゝ傷の註ゝゝゝゝゝゝ
遷就ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
骸物ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

有ふかく信仰をなす不思議なることなり同じく耳に聞ざる
ものをもとめ聞ものあり人の畏敬奉事をなす
をもつて為ふかく信ずる同じく見ざる所をもとめ耳ふかく
聞ざるものを物まうでをなす人心信仰ものを敬ふ人心信仰
こころざしをもつて鬼神の道の望みあるふかく信ずる敬
有りて在るがごとくあり鬼神の道の望みあるふかく信ずる敬
くして人のうやまひ者ごとくなり大学いはく視而不見
聽而不聞食而不知其味諸物同じくして異意章句の
意ハ不無此物此の理字を張せるなり鬼神
とつくるをもつて人名ふかく陰陽の号とつけ
ふかく信ずるなり

二代の時風俗淳朴にして鬼神をうやまひて祭祀
宗廟の礼をもつて繁重なり殷の世よりなほ殷人尚鬼
をもつてふかく崇敬あり故に殷人尚鬼と云ふ
なり二代聖王のなほ鬼神をうやまひ敬ふ
ことをもつてなり民の教義を信ずるなり
まことに忠信を尊ぶ人なり殷の世に
なほ遺老ありて遺民なり
以下親族を親ぶ賢を尊ぶ遺老遺民
なほ儀風俗世に不変革あり
かりあり百年二百年の間なほ
世人つねに間治乱を裏まことふ
以来偽りなるべく周の初め箕子武王のなほ
ことをもつてなり洪範の一篇大禹

三代の間、天子と治る大法、式あり。強生と福孟の教へ、ぱ
ゆくゆくして多く、生を分あるゆゑ、あるゆゑ
樂達の知と同じ。文子、子子、子子、子子、物民の義、殺鬼神の遠
の天へ、民の義、人の道、人倫の道、人倫の道、今日人倫の道、
ふかと、生を治して、強し鬼神、濟生、惑ひ、ひとしく、
と、ゆゑ、たゆ人、子生、我此の養生、と、鬼神、いのち、
長命、ゆん、と、祈ふ、と、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、
多し、強生、と、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、故、殺而
遠、と、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、
物、と、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、
生、ゆゑ、人、物、と、たのむ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、

の、求む、ゆゑ、ゆゑ、と、遠、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、
て、ゆゑ、人、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、
あ、ゆゑ、鬼神、と、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、
唐人の詩、漢の文帝賈誼、鬼神の、と、間、と、と、と、賊、
て、ゆゑ、膝夜半虚、家、不問蒼生、問鬼神、と、ゆゑ、ゆゑ、喜、ゆゑ、
子、路問事鬼神の章、ゆゑ、文子、鬼神、事、の、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、
說、ゆゑ、死生人鬼、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、
と、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、
の、間、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、
も、ゆゑ、鬼神、事、の、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、
さ、ゆゑ、ゆゑ、と、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、

るべからくそを大切なりとすべし。そもそも人は文と素
絪緼人要絪緼鬼未知死生要絪緼死生別ることあり。此絪緼あて
らるとは。古義の意いたるあるべしと。子語のつくる同とせるべしもちろそけ
たまうこなり。鬼神は幸うして感應あるやと問う。あらて人は
幸うるものと人得たるあるいは何ぞして鬼神は幸うるとなくしてや
と。孔子は人死してはいかなる同ふ。今日人生のうえ考ふ何ぞ
て死後のうえとなるべきやこのことまふ。そもそも人は文と素絪緼
人要絪緼鬼未知死生要絪緼知死別ることあり。生の字ふ。生
のはあり。生存のはあり。素註の意ありべし人のはいはとなるべ
易の系辭要終の意あり。古義の意ありべし人の存生の内のはいあと
つ中庸はいはあり。幸死生はこの生のこ。生の内人の

たるべしこうるとなるべし。大抵人鬼神のことふ於くいたる。今日當然の
人事とうく法あるこのこまひく。鬼神の有無感應のこへ
を疑ふ。人この事務に力をいたして。況昧不可知の境をいと費
はこうるやうたまうこ。言辭の表は彷彿ふ。豈て日無く
徒や久矣と。そもそもうる
三代の聖人當る鬼神とたいこと。筮爻兆のこと。徒經典
の中にあるる。周徒は人筮人の職あり。詩經は大人占爻の名あ
つこ。當こるとはこと。その崇信の招ぶ人へ。孤れこと
人るとはまるこ。ひこは鬼神は陵ることふ。書經洪
範七稽疑は卜筮のことこ。汝則從龜從筮從卿士從
庶民從是を謂大同と。君民上下同心こと卜筮こふ

古よりあハ十分のものをいそと大同小異なり亀筮人ものの美
同小異と挙くあくまで亀筮芸達千人用辭者用作出とつたえ
て空人ト筮と用ひるこの意なり人〻人君民卿士等とつく君
民卿士等同じあることしハ亀筮ものを古と告ることを一辭よりして
諸ものあるもあるも辭あるもの用ひくハ告勿用ひてハ〻〻
お陣征役等のことハ人ものをせるもハト筮の吉ものを吉ものを
告もあるく端事と告ハ〻〻大抵注書ハ鬼神ものをこころト筮
ハ然〻ものを多〻中庸ハ貨諸鬼神而無疑知天地とあり易の
文言ハ与鬼神同じを吉凶ものあるもたハ〻〻ひ吉凶とハ〻〻くとと
ものあるく告ハ〻〻
家語ハ貴同史子曰死者有知乎將無知乎子曰吾欲言死
之有知將恐孝子順孫妨生以送死者欲言死之無知將恐不孝
之子棄親而不葬賜欲知死者有知与無知那今之為活自
知之〻家語ハ〻〻ものを〻〻〻〻信用ものを〻〻〻〻なり
注ものを此語ハ〻〻ものを人ものの旨ものを人ものて後精神
魂魄あるものやものものを人〻〻疑惑と生ものを人ものを費ものを指く
ハ科学ものとものを竟ハ一決ものを〻〻古今来ハ
のものあり梁の范縝神滅論とあり〻〻〻〻形骸滅ものを時ハ神も滅
ハものものを〻〻〻〻詳ハ論ものを形ハものを〻〻〻〻ものを時
理ものを〻〻〻〻又ハ人ハ天地の氣と受〻人〻ものを形壞ものを時ハ
ものを氣又ものを人ものを〻〻張子のいハ物ものを形潰反ものを〻〻説ものを
古今鬼神の説大畧ものを〻〻〻〻注ものを〻〻ものを人ものを〻〻鬼神

有無の説あり。もとひく求むるこころあるべしと
或曰人の精神死後ハ消滅してあるべきものあらハ先祖とま
ぢらの宗廟とこころと無用のものあるべしや何ぞ寓在ところ不乃
ちるべしなくいまだしてをもひあるべしいまだ抵当用ハ受用
あり論議あり論議して今日事物の利益よりハとくに受用の
当用あり論議とし切れ世てをさして益のあれとあり先鬼神と
いへとしかつ祖父母一生の間者物と盡してをあまりとれ後ハ
とて存生のものとくハ相ひとしと事ひとしあり存生の内絶物と
とをハとうとしけ物をハ人ひとんとれとく死後ハ必
若反必面しハ相ひ次ひとしあり絶事ハをて准してもとへし。
後ひハ論語ハ夫子ハ祀の誠ともひてハ必在ハ神

必神在ハあり中庸ハ事死ハ事生ハ事亡ハ事存しハ
いとをハ先ハ事ハとをとくをハ在ハとくハ誠敬と者して
事ハをのハ人ハ思惟ハ事ハとめとくハ鬼神ハ知しあれりの
しをまりとくハ宗廟ハ祀の徒とやめ簠簋ハ遵ハ事のとを
ハとをとくあり問ハ人ハ必無のあり徒ハ鬼神の有無と極
めんとをハ畢竟論議をとのあり如く無益のしあり聖賢の言
又問ハ人ハ徒ハ死ハ後ハ記ハ義の篇ハ言ハ人ハ死ハ後ハ
とくハ聖人のとをハ人ハあるとのあり

訓幼字義巻之八終

訓幼字義跋

古學先生嘗著語孟字義
廻伊洛之狂瀾疏渠泗之
正派標字義條以便研究
默學者舊説深不除嘆講求

不精往〻不免疑圖故　紹
述先生繼志述事重著
斯書而字義益以啓明其
以國字者蓋不啻欲易解
耳欲使夫世〻少壯不力老

大徒悲者朝聞夕死而可
也歟扶翼世教黼黻聖經
至矣盡矣苟熟玩有得焉於
二書思過半勿以國字易
講而忽焉戊寅夏　公美寓

都下 先生令嗣東所君將
上梓公世校正始業使美紹
終其功吁如美者豈敢校訂
云乎但喜斯書啓廸學者
謹督剞劂之事云爾

寶曆九年秋八月
後生西周樋口公美謹識

東京帝國大學圖書之印
國語古義 十冊
學史定本 一冊
學史筆記 三冊

寶曆巳卯冬十一月新刊

四方購求之人須認此印爲記若無印者皆係僞刻

古義堂遺書目錄　文泉堂發行

古義點四書白文　全五冊
古義點五經正文　全十一冊

仁齋先生著述

板本		寫本	
論語古義	十冊	孟子古義	七冊
大學定本	一冊	童子問	三冊
古學先生文集	三冊	古學先生詩集	一冊
古學先生和歌集	一冊	易乾坤古義 附大象解	一冊
日札 極論 續近思錄 鈔	一冊	文式	一冊
中庸發揮	一冊	春秋經傳通解	二冊
語孟字義	二冊		

石摺

古學先生行物行書

東涯先生著述

板本

大學定本釋義 一冊
中庸發揮標釋 二冊
童子問標釋 一冊
周易經翼通解 十冊
制度通 十二冊
名物六帖 十八冊
經史博論 四冊
辨疑錄 四冊
古學旨要 二冊
古今學變 三冊
經學文衡 三冊
刊謬正俗 一冊
釋親考 二冊
通書管見 一冊
唐官鈔 三冊
歷代官制沿革圖鋪 一冊
復性辨 一冊
新刊助字考 二冊
用字格 四冊
秉燭譚 五冊
學文關鍵 一冊

德必有隣 雲川雨苑

寫本

鄒魯大旨 二冊
訓幼字義 八冊
紹述先生文集 二十冊
紹述先生詩集 十冊
勢遊志 一冊
論語古義標註 二冊
孟子古義標註 一冊
語孟字義標註 二冊
置集註標釋 六冊
周易傳義考異 九冊
讀易圖例 一冊
讀易私說 一冊
周易義例卦變考 一冊
春秋胡傳辨疑 二冊
文集附錄 一冊
三奇一覽 一冊
名物六帖 七冊
間居筆錄 三冊
己丑筆記 庚寅日錄 一冊
東涯漫筆 二冊
大極管見 一冊
聖語述 一冊
經史論苑 一冊
天命或問 一冊
帝王譜畧 四冊
本朝官制沿革圖考 六冊

後漢官制 一冊
倭漢紀元録 一冊
輶軒小録 一冊
先澤傳 一冊
集語鈔 一冊
宮室名號 一冊
考古襍編 一冊
鷄林軍記 五冊
雜雋手録 一冊
三韓紀畧 二冊
盍簪録 四冊
詩經要領 一冊
古官 一冊
閱史隨鈔 一冊
倭漢通信雜誌 一冊
朝鮮國諺文字母 一冊
肆言類雋 一冊
朝鮮官職考 一冊
盍簪餘録 二冊
佔俾漫鈔 一冊
宮殿門考 一冊
國事襍語 一冊
朝鮮雜誌 一冊
文體辨畧 一冊
柬牘套語 一冊

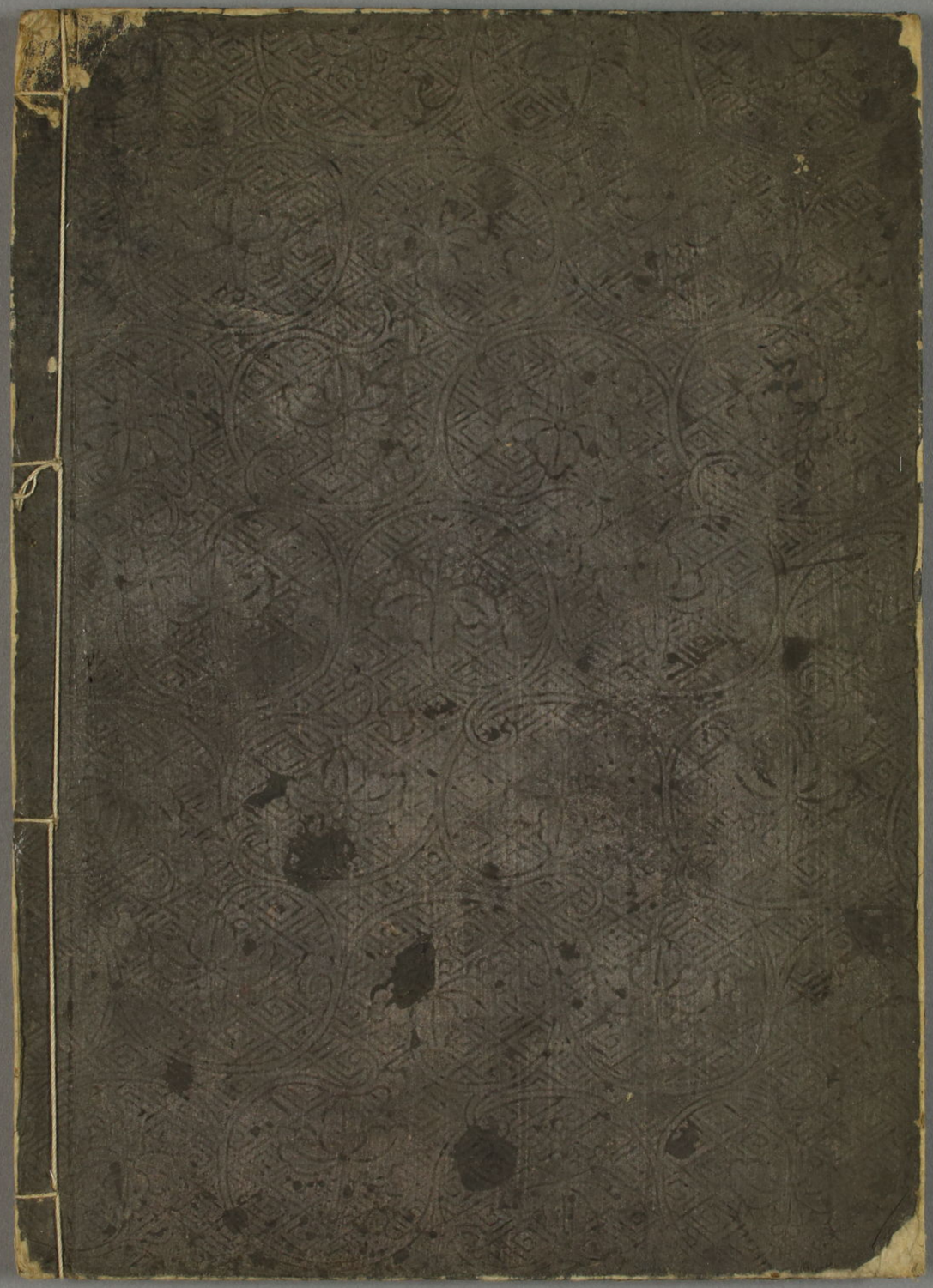
尤氏熟語 一冊
東涯詩話 一冊
五音五倍訣十例 一冊
朝野通載 三冊
當世詩林 一冊
時英文雋 三冊
須記詩選 一冊
東涯談叢 一冊
避諱書 一冊
同續集 三冊
同續編 一冊
同續編 二冊
明詩絶奇 一冊
姓林全書 二冊
異名考 一冊
同新集 一冊
同遺編 一冊

東所先生著述

古義抄翼 七冊
詩解名物 一冊
中庸発揮抄翼 一冊
操觚字訣 十五冊
詩解 十八冊
古學十論 一冊

天保十二辛丑春

京都書林　林權兵衛
　　林芳兵衛

本實雜論　一冊
助字考小解　二冊
脩成先生文集　十一冊
譯林　五冊
四聲彙辨　五冊
脩成先生詩集　五冊
譯原　三冊
集帖姓名　二冊

平安書肆　寺町二條下ル町　林權兵衛